

# 京都新聞

一日版  
キーワード  
きょうと  
企画・制作  
京都新聞COM  
「キーワードきょうと」編集室

私のキーワード Kyoto

## 京都発 国際舞台行き

京都へのあこがれ

私は少年の頃から中央志向があり、それを目標に高校時代は「ガリ勉」で、社会科が好きでした。日本史では平安・室町時代は言うまでもなく、とりわけ好きだった幕末期は、京都にまつわる史実がいっぱいでした。ひたすら詰め込みました。「紫宸殿しんてん」と見たことないけど紫宸殿しんてんといった感じでした。

京都への想いが募る中、チャンスが訪れました。高2の修学旅行です。32時間の旅の終着駅が京都でした。改札口を出て、仰天しました。京都タワーです。歴史の重量感あふれる古都のイメージが飽和状態になっていただけに、その近代性にはただびっくり。でも、清水さん、金閣、銀閣とめぐり、京都へのあこがれは増すばかりで、結局、京都の大学を選びました。

と意識し、ここに住み、ここで学べる喜びを実感しました。

カトリックとの出会い

専門は英語で、西洋へのあこがれも原点にありました。プロテストントの大学を卒業後、国際ボランティアを経てノートルダム学院小学校に勤めました。ノートルダムでは、児童とともにカトリック教育と、日本と京都の伝統文化・芸能に触れました。その機会に恵まれたことと、その世界の第一線の方々から手ほどきを受けたのは幸運でした。

に先駆けた日本で最初の学区制小学校です。西暦1500年の祇園祭再興とあわせ、京の町衆の意気を強く感じます。そして、京都人の懐の深さにカトリックも抱かれている気がします。

京都から国際人を

この4月、ヴィアートル学園と本学院は協力関係を確立し、その協力の一環として、洛星中学校と本校の間に進学についての特別選抜制度が生まれました。私は、本校から洛星中へ男子児童が単に進むだけではなく、本校の女子児童が系列の中高大で学び続けるように、カトリック教育の継続性を掘りどころとして学を深め、将来は男女を問わ



ず国際舞台へと羽ばたくことを願っています。国際性には日本人としてのアイデンティティが不可欠です。わが国の歴史と文化のおひざ元のこの京都でそれを体得し、カトリック教育で「他者への奉仕性」を磨かれた国際人が、京都からたくさん誕生することを熱望しています。

行田 隆一

1954年生まれ 北海道出身  
ノートルダム学院小学校 校長  
同志社大学文学部英文学科卒業、名古屋学院大学大学院外国語学研究所英語学専攻修士課程修了。  
1989年ノートルダム学院小学校に勤務、  
2012年第7代校長に就任、現在に至る。2010年、第59回読売教育賞外国語教育部門最優秀賞受賞。

Yukio Ryuchi